

平和を実現する人

イザヤ書9章5, 6節

マタイによる福音書5章9節

8月に入りまして、私たちは平和に対してより考えさせられるわけですが……。アメリカの原子爆弾を浴びた日本、そして、日本の支配から解放された韓国、両国民の8月を迎える気持ちは違いますが、両方とも戦争の恐ろしさと愚かさ、そして、平和がいかに尊いものであるかを思うのは同じ気持ちであると言えるでしょう。ナチスでのユダヤ人虐殺、アウシュビッツ強制収容所のことが明らかになってテレビにも放送されていますが、人間がどこまで残忍であるのかが分かります。しかし考えてみるとローマのキリスト者に対する迫害も残忍を極まるものでした。

人間の恐ろしさが分かります。しかし、それは昔の話ではないのです。

今も、あっちこっちでの戦争の無残さをテレビを通して見ている私たちは、戦争というのが昔話や他人事ではない、ドラマの世界ではない、私たちの現実であることを実感する日々です。

この頃はコロナも加わり、今は南の方の豪雨による被害もあり、平安、平和という生活は遠い話のように感じられます。

コロナをどのように収めるか、医学、科学、政治の世界で奮闘しているようですが、なかなか収まりません。また、世界あちこちで平和をもたらすための様々な会談が開かれ、私たちが暮らすのによりよい世界を作ろうと議論されていますが、この地球上には絶えず戦争と迫害、災難が絶えないのです。

では、人間の世界にはこのようなことがおこるのは仕方がないことだとして、あきらめ、なすがままにしておけばよいのでしょうか。

今日読み上げました聖書の部分は主イエスの山上の説教の一部です。この説教は直接的には「弟子たち」に向かって語られていますが、弟子たちだけではなく、これは主イエスに従おうと決意した者に与えられる「服従」の道を示しているのです。ここには神の国での倫理が書かれており、真の祝福が何であるかが語られているところです。「至福の教え」として親しまれてきました。ここでは「幸いです」という感嘆文が繰り返されています。これを正式に訳するならば、「ああ、何と祝福されていることよ」と主イエスが感嘆の声をあげておられることがわかります。

9節をみますと、「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」と書かれてあります。これは、「平和を実現する人々はいかに祝福されたものであろう。その人たちは神の子と呼ばれる」ということです。

平和を実現するとは、何のことでしょうか。私たち人間が平和を造りだすことができるのでし

ようか。預言者イザヤは言います。

「9:5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる。 9:6 ダビデの王座とその王国に権威は増し、平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって、今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。」

ここには、イスラエルの捕囚の民が回復され、平和になるのは、人間の力、戦いによるのではなく、神様から与えられるということが宣言されています。「生まれた」「与えられた」「彼の肩にある」「唱えられる」とは、すでに実現されていることを確実に示す言葉であります。確固たる平和が与えられることは一方的な神様の御業によるものである。そして、それは、ひとりのみどりご、ひとりの男の子が与えられることで実現されることを確信しているのです。

さらに預言者イザヤは言います。「 53:5 彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」

つまり、預言者イザヤは、メシアの苦難によって、平和が与えられたということを、聖なる霊によって確信し、預言しているのです。

私たちにはすでに平和が与えられているのです。すでに平安が与えられているのです。ですから、ここで平和を実現する、ということは既に与えられている平和を証していく、伝えていく、宣言していくということです。

エフェソの信徒への手紙 2 章 14～16 節にこのように書かれています。「キリストは私たちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」

つまり、主イエス・キリストが平和、そのものであるということです。

それを知った使徒パウロは福音のために喜びを持って迫害と苦難を受けました。争いと憎しみに満ちたこの世界で、主イエス・キリストによらなければ、この世には希望がないということをさどっていたのです。福音で示された平和のみに希望があることを確信していました。

平和は主イエス・キリストを通して、神様が与えてくださることを知っていたのです。その平和を伝えるために使徒パウロは言います。

「兄弟たち、わたしたちの主キリスト・イエスに結ばれてわたしが持つ、あなた方に対する誇りにかけて言えば、私は日々死んでいます（I コリント 15:31)」。パウロの誇りは自分がキリストのうちに死ぬことでした。パウロはキリスト・イエスのものとなった人として、肉の欲情や欲

望を十字架につけてしまった人でした。悪を善で返し、敵を許し、迫害を受けながらも愛を示す人となりました。キリストによって日々死んでいなければならないことであるのです。使徒パウロはキリストと共に死ぬところで、神の力が与えられることを知っていました。自分が弱い時こそ、神の力が増していくことを知っていたのです。主と共に死ぬ人でなければ真の平和は実現できないのです。ですから、真の平和を実現する人は、まず、この世の問題、不義と戦争、不正、そのようなことが政治的な問題からではなく、社会、経済的な問題からでもなく、先ず人間の心の問題、つまり、罪の問題からくることを知っている人です。表の形は政治、社会的な問題に見えますが、根本的には人間の罪の問題です。

勿論、社会、政治的ないろいろな面での平和に対する努力は大事です。しかし、それで真の平和が来るとは思わないことです。人間の心が変わらなければ、罪の問題が解決できなければ、真の平和はないのです。それは歴史が証明しています。力によって抑えられ、作られた一時的な偽りの平和、安定はあるのかもしれませんが、しかし、それは、長続きしないのです。それで、平和の主イエスは人間に真の平和をもたらすために、代々に渡って与えるために、ご自身が十字架につけられて、人間をその罪から解放させようとしてしました。平和を実現する人は、私たち人間の罪の重さが神の子イエスが十字架で死ななければならないほど、いかに大きな問題であり、そして、主イエスの十字架での罪の赦しがいかに大きな恵みであるかを深く悟り、体験した人です。それで、平和を実現する人は主イエスの解放のメッセージ、その十字架と復活を宣べ伝える人です。なぜなら、人が主イエス・キリストに出会い、その罪から解放されなければ、真の平安と真の平和は得られないからです。

平和を実現する人は、神様の前でへりくだった心を持っている人です。人間の罪深さと弱さを知っているからです。そして、人間の力では平和は実現できない、神様の力によってのみ、なされることを知っているからです。ですから、神様の前にへりくだって祈り求め、平和の君、主イエスに従っていくのです。福音の光に照らされて自分がいかに弱くて罪深い存在であることを知っている人です。人の子が仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人のために身代金として自分の命をささげるためにきたとおっしゃった主イエスのみ心を知っている人です。ですから、自分の権利を主張しません。上席を好みません。人の誉れや評判に左右されません。ただ、神の国と義を求めながら、自分に与えられている十字架を負う者です。父なる神様の前にへりくだって、相手を尊重しながら、互いに愛しなさいとおっしゃった主イエスの掟に生きる人です。

私たちは主によって選ばれ、試練が多いこの世の中に生かされています。どのような苦難も私たちに倒すことはできません。どのようなものも私たちに与えられている平和を奪うことはできません。そして、この真の平和を喜びをもって伝えていくのです。このように告白し、生きる人は神の子と呼ばれるのです。私たちは父なる神の子です。